

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門

特任准教授(常勤) 勝又 美穂子

9月8日-9月21日の期間でベトナム(ハノイ、ハイフォン)にて2019年度のベトナムCIS(カップリングインターンシップ)が実施されました。大阪大学の外国語学部2名、工学研究科1名、基礎工学研究科1名、ハノイ工科大学(HUST)の経済・管理学部2名と機械工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地での2日間の事前研修(HUST、ハノイ)で、学生同士のアイスブレイキングを目的としたコミュニケーションの研修、両国紹介、5S、3現主義などを含むものづくり日本企業の強み、溶接基礎知識、CIS 実習テーマの検討などを行いました。9月11日からの休日を除く5日間は、ハイフォンにある IIA [IHI INFRASTRUCTURE ASIA] (橋梁会社、IHI の子会社)で企業実習を実施しました。会社説明(組織、業務内容)、生産工程の説明、安全講習、実習(ガス切断と溶接)などを受けると共に、橋梁の外注会社(ナムロン社)の工場見学を行いました。また、9月17日には IHI グループが建設したビン橋(ハイフォン)、ニャタン橋(ハノイ)を見学し、橋梁会社

の最終製品を勉強しました。実習テーマ「労働意欲における課題と対策」に関して、企業の幹部・スタッフ・ワーカーとのインタビューなども踏まえて、学生は連日熱い議論を交わしました。9月15日の文化体験では、世界遺産のハロン湾へ行き、見聞を広めました。

最終日の9月20日にはHUSTで、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、IIA の佐々木社長、山本工場長、HUST の Dr. Cuong (経済管理学科長)、阪大の清水教授(言語文化研究科)、菅客員教授・勝又特任准教授(接合科学研究所)らの参加があり活発な質疑応答が行われました。佐々木社長からは「興味深い現状の調査結果及び提案が発表された」とのコメントがありました。

学生は「ものづくり現場」を体験すると共に、同テーマに取り組むにあたり、ベトナムの文化背景、企業・組織の在り方、働くこととは等、多方面からの考察を重ね、大変有意義な学びを得ることが出来ました。

